

## 自分なりに日本を楽しみ、四季を楽しむ

### 四季を感じるお店づくり

いぐさブティック草

藤瀬 智子 さん



緑に囲まれたお店の入口

夏が近づくに連れて、妙に恋しくなる草。今回は、そんな草をメインに取り扱われている『いぐさブティック草』の藤瀬さんのお話を伺いました。

**い草は  
実は一年中使えるんです！**

「お店は一年中開けて、お客様に足を運んでいただけるようにやっています。でも従来のい草のイメージが夏のものなんですよね。だから一年中お客様に足を運んでいただくには、い草だけじゃなくて、生活全般を提案して楽しんでいただけるようなお店にしたいかな」と

そうお話される通り、「草」では、四季折々、さまざま

イベントや展示会を開催されています。お店のディスプレイにもこだわっておられ、品揃えや雰囲気も四季に合わせてしよっちゅう変えられているそうです。

取材のためにお伺いした際は、あちらこちらに涼しげな草の商品がディスプレイされていました。やはりい草は夏のものなのでしょうか。

「もともと夏のものというわけでもなくて。あまりにも高温多湿な日本の気候に適しすぎていて、夏に気持ちが良いから、夏に使いたいって思うだけで。天然素材だから、冬に使っても決して冷たくないんですよ」

い草だけではなく、食品であったり、洋服であったり、





さまざまなものを取り扱われています。

「今欲しいって感じられるものを提供しないとお客様もなかなかピンと来ないと思うんです。だからその季節に素敵だと思えるようなものを提案していくようにしています」

おひなさまの時期には、おひなさまを、秋にはお月見：とといった感じに。日本の四季を楽しめるお店づくりを目指されているとのことでした。「こういうのを取り入れて、こういうのを飾ったら楽しいよねっていうのを提案してい

ます。そんなお店づくりのなかに、いつもこっそり草を忍ばせてます」

### 昔はあたりまえだった 日本文化

「生活を楽しむのが一番」という藤瀬さん。特に日本の文化を取り入れながら生活することを楽しまれているようで、着物もよく着られるとのこと。ですが、日本で着物を着て歩いていると驚かれることが多いとお話されました。「昔の普通をまた取り戻したいなっていうのがあります。



店内に並ぶ雑貨  
季節に合わせたディスプレイ



いま、日本の文化ってだんだん失われているみたいなので、日本の文化がなくなったら、正直、い草っていらなくなるんですよ。でも日本人が日本の文化を忘れるのはもったいないので」

い草であったり、陶器であったり、着物であったり。昔からの日本の営みを取り戻しつつ、長く使い続けることで、味わいが深くなっていくことを楽しむ日本の心。そんな日本の文化全体を、お店を通して紹介していきたいなと思われているとのこと。

### ものづくりの繊細さを 伝えたい

いぐさブティック草は、藤瀬さんのお母様が始められて、今年二十五周年を迎えました。もとお店の跡を継ごうと考えていたのかお伺いしたところ、当初から「いいな」と思っていたとのことでした。しかし、ものづくりに興味があったので、デザイン系の大学に進学されたとのこと。

「ものづくりをすればするほど、ものを作る大変さとか、職人さんやものづくりに関わっている方の凄さが身にしみてわかった分、それを人に伝えるような仕事をしたくなっているのを思い始めた時に、ここがそもそもそういうお店



だなんて」

いまは四人のお子さんを育てながら、仕事をされているので、なかなか前に進んではいけないとのこと。

「ゆっくりでも前に進んでいくから、母にはもうちょっと頑張ってもらって、じわじわと出来ることから少しずつ交代していったらいいなと思っています」

### 日本の文化を発信して い草のお店づくり

今後はどのようなお店づくりをしたいと考えられているのでしょうか。やはり、日本文化を発信していくようなお店作りを目指されているのでしょうか。

「日本ばかりになると取っ付きにくいですがからね。なんと



い草の商品はもちろんファッションも

いつでもお店はお客様あつてのお店なので、お客様が来たと思われたい。海外のいいものがあればちよっと取り入れてみたい。日本のいいものを大事にしたいけど、日本を押し付けず、いろんなものを融合させた中に日本の文化をさらっと入れていきたいですね」

藤瀬さんご自身としては、い草の手織りに挑戦してみたいとのことでした。

「いつかは作ったものがお店に並んだらいいなって思っています」

四季それぞれに表情がある日本。その日本を、自分なりに楽しんで藤瀬さんだからこそ提供できる日本の四季を、いぐさブティック草で感じてみてはいかがでしょうか。